

令和7年度 発生予察情報	<b>発生予報第4号（概要版）</b>	令和7年6月18日発行 宮城県病虫害防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	---------------------	--

品目	病虫害名	発生予報	病虫害名	発生予報
水稲	いもち病 (葉いもち)	発生時期: 平年並 発生量: 平年並	コバネイナゴ	発生時期: 平年並 発生量: やや少
きゅうり	うどんこ病	発生量: 平年並	褐斑病	発生量: 平年並
	べと病	発生量: 平年並	—	—
トマト	アザミウマ類	発生量: 平年並	コナジラミ類	発生量: 平年並
なす	うどんこ病	発生量: 平年並	アザミウマ類	発生量: 平年並
	コナジラミ類	発生量: 平年並	ハダニ類	発生量: 平年並
いちご	うどんこ病	発生量: やや少	炭疽病	発生量: 平年並
	ハダニ類	発生量: 平年並	—	—
きく	白さび病	発生量: 少	アザミウマ類	発生量: 多
	アブラムシ類	発生量: 多	—	—
作物共通害虫	オオタバコガ	発生量: 平年並	ハスモンヨトウ	発生量: 平年並

発生予報第4号の他に以下の情報を発行しています。

- ・防除情報 第3号 りんご「褐斑病」(令和7年6月18日発行)

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第5号の発行日は7月2日(水)の予定です。

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所  
メルマガ  
トップページ 登録フォーム



## ー7月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月9～12日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台6月12日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期 (発生開始期※)	発生量
いもち病 (葉いもち)	平年並 7月第1半旬(7/1～7/5)	平年並

※発生開始期: 予防的防除を行わなかった水田において病斑が確認され始める時期

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった( /-)。また、残苗の放置筆率は平年よりやや高いが、発病筆数は平年並であった。( /±)
- (2) 平均気温が19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。(±/±)

病害虫名	発生時期 (本田侵入盛期)	発生量
コバネイナゴ	平年並 (7月第2半旬:7/6～7/10)	やや少

#### 予報の根拠

- (1) 6月第3半旬の定点調査(雑草地・畦畔)の結果、幼虫は若齢幼虫が主体であった。(±/ )
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( -/ )
- (3) 巡回調査の結果、畦畔際の発生量は平年よりやや少なかった。( /-)
- (4) 前年の発生量がやや少なかったことから、越冬密度はやや少ないと推測される。( /-)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1)共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

#### (2)葉いもち

- ・本田でのいもち病の発生源となるため、補植終了後の苗は速やかに除去し、裏返す等、適正に処分する。
- ・箱施用剤を使用していない場合は水面施用剤による予防防除を実施する。
- ・予防防除を実施した場合でも、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除する。

- ・ BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の推定結果では、6 月第3半旬に県広域で好適条件が出現しているため、今後の発生に注意する。最新の推定結果は以下のHPを参照する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

### (3)コバネイナゴ

- ・ 齢期が進んでから薬剤散布を行うと防除効果が低下するので、中齢幼虫(体長 1.5cm 程度)が見られる本田侵入盛期までに防除を行う。

### (4)フタオビコヤガ

- ・ 本虫における被害は出穂の遅れや登熟歩合の低下などを引き起こすことがあるため、必要に応じて防除を実施する。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

#### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録ページ

## —7月中旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:6月9～12日

天候予報:仙台管区气象台6月12日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率と発病葉率は平年並であった。( / ± )
- (2) 湿度 45～85%が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率と発病葉率は平年並であった。( / ± )
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / + )、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率と発病葉率は平年並であった。( / ± )
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

#### ※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず  
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・薬剤防除は、罹病葉・罹病果を取り除き、ほ場内の伝染源を減らしてから、葉裏にも十分かかるよう散布する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

#### (2) うどんこ病、褐斑病、べと病

- ・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。
- ・薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。

・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## —7月中旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:6月11～12日

天候予報:仙台管区气象台6月12日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並( /±)、寄生花率は平年並であった。( /±)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。( /—)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( /+)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (—):早くなる要因 (空欄):該当せず  
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (—):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に栽培管理を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難なので、初期防除の徹底を心がける。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noonkan/boujosisinn.html>

#### (2) すずかび病

- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重きをおく(過去2か年、6月末～7月上旬の巡回調査から発病を確認している)。
- ・病原菌が葉に感染してから病斑が発生するまで2週間以上と潜伏期間が長く、発生を確認した時にはすでに他の株にも潜在感染している可能性があるため、見つけ次第速やかに防除を実施する。

### (3)アザミウマ類

- ・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。
- ・卵から成虫までの発育期間は25℃で約14日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

### (4)コナジラミ類

- ・コナジラミ類の寄生密度が高くなると、排泄物で果実や葉が汚れたり、タバココナジラミでは果実の着色異常が起こるので、ほ場をよく見回り、発生初期からの防除を徹底する。
- ・タバココナジラミの発生が低密度でも黄化葉巻病ウイルスを媒介するため、黄色粘着トラップ等を設置したりほ場の見回りを行い、訪虫の有無等を観察する。発生を確認したら、発生が初期のうちに防除を行う。

### (5)トマトキバガ

- ・県内に設置しているフェロモントラップやほ場において飛来や被害が確認されているため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・発生が確認された際は、トマトキバガに登録のある農薬を散布する。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

#### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## —7月中旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:6月10、12日

天候予報:仙台管区気象台6月12日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / - )
- (2) 温度 25～28℃、湿度 50～80%が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く( / -)、寄生花率は平年並であった。( / ± )
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。( / - )
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並( / ±)、寄生頭数はやや少なかった。( / - )
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / + )

#### ※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。

- ・天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。
- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noonkan/boujosisinn.html>

## (2)うどんこ病

- ・多発してからの防除は困難なので、発病前から計画的に系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ・DMI 剤 (FRAC コード:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11) 及び SDHI 剤 (FRAC コード:7) 並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため連続しての散布を避け、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。

## (3)アザミウマ類

- ・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。また、ほ場周辺の除草に努める。
- ・卵から成虫までの発育期間は25℃で約14日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回 IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

## (4)コナジラミ類

- ・ほ場をよく見回り、発生初期からの防除を徹底する。

## (5)ハダニ類

- ・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が寄生していた場所を観察し、虫の有無や薬剤の効果を確認する。効果が見られなかった場合は、気門封鎖剤も含めて系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

# 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	<b>発生予報第4号ーいちごー</b>	令和7年6月18日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	--------------------------

## ー7月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月6日(親株)

天候予報:仙台管区気象台6月12日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	やや少

#### 予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率および発病株率は平年よりやや低かった。( /ー)

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(例年、この時期の調査では発生は確認されていない)。( /±)  
 (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並( /±)、寄生頭数は平年並であった。( /±)  
 (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- 適切な肥培管理及び予防防除を徹底し、健苗育成に努める。
- いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までとなる。
- 本ぼにおける初期病害虫の発生の多くは育苗からの持ち込みが原因であるので、親株・育苗期間中もしっかり防除を行う。
- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

#### (2) うどんこ病

- 最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。

- ・夏季の高温で発病が一時減少するように見えるが、菌糸で越夏し、気温の低下とともに蔓延するので、きちんと予防防除に努める。

### (3)炭疽病

- ・発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り適切に処分する。
- ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブや底面給水等によりかん水を行う。また、葉の濡れ時間が長くならないよう遅い時間のかん水は避け、日没までに水滴が乾くよう実施する。
- ・発病株の残渣が土壌中に残り伝染源となるため、使用資材は農業資材用の消毒剤で洗浄するか、更新する。
- ・高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。また、遮光率の高い遮光資材はかけっぱなしせず開閉し、イチゴに当てる日照量を増やすなどして健苗育成に努める。
- ・予防散布の徹底が重要であるので、計画的に薬剤散布を行う。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤 (FRAC:11) やベンゾイミダゾール系殺菌剤 (FRAC:1) の耐性菌が確認されているので留意する。

### (4)ハダニ類

- ・人に付着し移動することがあるので、発生が少ないハウスから作業を行うなどし、発生の多いハウスでの作業は後半で行う。
- ・定植前の高濃度炭酸ガス施用は効果が高いが、苗へのハダニの寄生数が多いと高濃度炭酸ガス施用の効果が不十分になるおそれがあるので、親株～育苗期も防除に努める。
- ・気門封鎖剤は物理的に作用する薬剤であり、対象害虫にかかると効果が得られないため、植物体全体にムラなく丁寧に散布する。
- ・ほ場により効果が低下している殺ダニ剤があるため、薬剤の選定に留意し RAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー7月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月10日～12日

天候予報:仙台管区气象台6月12日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
白さび病	ー	少

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病は確認されなかった。( /ー)
- (2)20℃以下の低温と多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、被害葉率は平年よりやや高かった。( /+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	多

#### 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、寄生頭数は平年より多かった。( /+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1)共通事項

- ・薬剤散布の予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に前倒して防除を実施する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・ウイルス病は、アザミウマ類やアブラムシ類によって虫媒伝染する。伝染源となる罹病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。
- ・ほ場周辺の雑草は、アザミウマ類やアブラムシ類の発生源となるので除草に努める。

・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

## (2) 白さび病

- ・罹病葉や残渣が原因となって発生が拡大するので、罹病した部位は早めに摘み取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ・葉裏の初期病斑を見逃さないようよく観察し、葉裏も含め十分量の薬液をむらなく散布する。

## (3) アザミウマ類

- ・多発後は防除が困難であるため、ほ場をよく観察し、発生初期の防除に努める。
- ・薬剤防除後に効果の低下が疑われる場合、薬剤抵抗性が発達している可能性があるため、別系統の薬剤を散布する。

## (4) アブラムシ類

- ・一部で寄生頭数が多いほ場が確認されている。ほ場をよく観察し、発生初期の防除に努める。

### 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

#### 《お問い合わせ先》

##### 宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: [byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## －7月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:6月10～12日

定点調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)、大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台6月12日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、露地ぎくで寄生が確認された。( / ± )
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。( / ± )
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / + )、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	－	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(トマト、なす)。( / ± )
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。( / ± )
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / + )、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず  
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・多くの植物を餌にする広食性害虫であり、野菜、花き等の多くの作物を加害するため、こまめにほ場を見回り早期発見に努める。
- ・幼虫の齢期が進むにつれて防除効果が低下するので、若齢幼虫期での防除を心がける。
- ・施設栽培では開口部へ防虫ネットを設置し、成虫の施設内部への侵入を防ぐ。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

#### (2) オオタバコガ

- ・生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入すると農薬がかかりにくく防除が困難になるため、農作物に食入する前に防除を行う。

・トマトやナス等果菜類の被害果、レタスや花き類等の被害株は、内部に幼虫が生息している場合があるので、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

### (3)ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ

- ・葉裏に毛でおおわれた卵塊で産卵し、集団で葉を食害するので、見つけ次第除去する。
- ・初発の防除後にも被害が見られる場合は、成虫の飛来が多い状況であるため、被害葉の除去とともに、7～10日間隔で薬剤をローテーション散布し、若齢幼虫を防除する。

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動  
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム